


### 三尾寺本堂



指定区分	県指定重要文化財(建造物)
読みかた	みおじほんどう
所在地	新見市豊永赤馬
指定年月日	昭和34年1月13日
解説	永禄2年(1559)に庄勝資によって再建された。単層、入母屋造り、茅葺き。桁行5間、梁間4間。外観では、柱間に彩色した彫刻入りの臺股が唯一の装飾で、簡素な造りとなっている。三尾寺は、真言宗寺院で、創建以来、備中北部の真言密教の道場として栄えたが、応仁・文明の乱で焼失したという。
アクセス方法	中国自動車道北房ICから車で約20分
公開状況	外観のみ
設備	駐車場 
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	三尾寺本堂
よみかた	みおじほんどう
しょざいち (所在地)	新見市豊永赤馬
していつひ (指定した日)	昭和34年1月13日
せつめい	1559年(ねん)に備中(びっちゅう)の有力 武将(ゆうりよくぶしょう)庄勝資(しょうかつ すけ)が建(た)てたものです。屋根(やね) はかやぶきで、飾(かざ)りが少(すく)ない 簡素(かんそ)な造(つく)りの本堂(ほんど う)です。かやぶきのかや(茅)とは、アシ ・ススキ・チガヤなどの長(なが)い繊維(せん い)の葉(は)や茎(くき)をもつ植物(しょ くぶつ)です。